

きゅうり これからの管理

昨年は大変お世話になりました。本年もよろしくお願い致します。

年が明けまして、販促成きゅうりの定植も終わり、促成きゅうりにつきましては冷え込みが続き、やっと草勢が落ち着いてきた状況となってきました。

厳寒期となっています。十分な省エネ対策を講じるため、再度ハウスの隙間等の確認作業を行いましょう。

【促成胡瓜】

1月に入り全体的に力枝も連続着果となってきたと思われます。草勢が落ち着き、力枝の果実肥大も良くなるようであれば、雌花の摘果及び遮光を実施しましょう。また、今期の促成につきましては12月中旬まで冷やし管理を行った分、十分な地温が確保できていないことが想定されます。一度圃場の地温確認を行って下さい。果実肥大が鈍い方につきましては、午前中（13時～14時まで）の温度湿度をしっかりと保ちましょう。特に、曇雨天時での午前中の温度確保は絶対に必要です。最低でも22℃以上は強制加温を行い、温度確保に努めてください。

つる下ろし作業は遅れず、定期的な灌水に努め、急な肥料切れが出ないように日々の葉色には注意しましょう。

定期的な速効性肥料の施用も有効です。 OK F - 1 3～5 kg/10 a

【半促成胡瓜】

定植御活着不良により生殖生長に傾いている方につきましては、雌花の摘果を行うか親枝摘芯位置を下げる対処を講じて下さい。逆に栄養成長に傾いている方につきましては、遮光を控えハウス内を乾燥していきましょう。夕方の内ビニール閉めを遅らせてみるのも良いと思われます。作業遅れが出ないように、管理してください。

灌水については、少量多灌水を目標に肥料切れが出ないように速効性の肥料を活用してください。品種によっては葉色の薄い系統品種がありますので、定期的な速効性の追肥をお勧めします。

【肥料について】

促成・半促成きゅうり共に、日照時間が短い分草勢の回復は遅れていきます。葉面散布や発根剤を定期使用し草勢維持に努めてください。

葉面散布剤：パワフルグリーン500～1000倍 ベストⅡ 500～1000倍

発根剤：新RBパワー 2～3リットル/10 a

アミノ酸液肥：アミハート 3～5リットル/10 a

植物活性剤：トーマスくん 1～2リットル/10 a/月1～2回程度灌水

【病害虫について】

今期作は春先からのつる枯れ病の発生が多発する傾向があります。対策として、1月のうちに1回は予防防除を行って下さい。

黄化えそ対策として、圃場内にスリップスが見られないようであっても極力殺虫剤の混用を行って下さい。（昆虫寄生菌をうまく使用しましょう。）粘着板の張替え及び追加も検討してください。

農薬ローテーション・新規農薬の混用等、農薬使用の際不明な点がありましたら指導課までご相談下さい。

果樹園の管理(1月)

2014年は大変お世話になりました。2015年も宜しくお願い致します。

1月の果樹管理は以下の通りです。

1. 日向夏の管理

1) 土壌改良の実施及び有機質施用

- ・土壌改良については土壌分析を実施してから行います。実施の際は土を生産指導課までお持ちください。

目安…苦土セルカ2号 100kg/10a

- ・日向夏は強勢にするほど着果性が良くなりますので、必ず有機質を施用し、土作りを行います。

目安…完熟堆肥 2 t以上/10a

※施用の際は、広げずに固めて撒くと細根の発生が良くなります。

2) 病害虫防除

2月より収穫となりますので、病害虫防除は十分注意して実施して下さい。

| 使用目的 | 使用薬剤 | 使用倍数 | 使用時期 | 使用回数 |
|----------------|----------|--------|------------|------|
| 後期落果防止 | マデックEW | 3,000倍 | 着色期～収穫20日前 | 1回まで |
| ハダニ カイガラムシ類 | ハーベストオイル | 60～80倍 | 12月～1月 | — |

2. 落葉果樹類の管理について

1) ハウスぶどう

樹液の流動が止まった1月上旬より剪定を実施して下さい。また、剪定時は発芽後の樹形を考えて誘引も実施して下さい。

2) キウイフルーツ

1月中に剪定を終わらせます。

中果枝、長果枝を主体に切り返しと間引き剪定を併用して行います。3年以上の側枝になると結果部がはげ上がり、また負け枝の原因や衰弱枝になりますので、充実した長果枝に更新します。

昨年も台風により、新芽が発芽した園地がありました。剪定時に枯れこんでいなければ利用できますが、枯れこんでいる場合は通常の剪定を実施して下さい。

※農薬の使用については、使用基準（適用作物、使用倍数、使用回数、収穫前使用日数、散布量等）を守って使用して下さい。少しでも不明な点がありましたら担当者にご相談下さい。

連絡先……生産指導課 電話 77-1301

露地野菜生産者のみなさまへ

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ致します。

さて、平成26年は春作の低温・曇雨天、秋作の多雨・台風の接近など、露地栽培の栽培環境としては管理が大変難しい年となりました。生産農家は対応に大変苦勞されていることと思います。

年々、このような極端な気象条件が続く事が予想されますが、異常な天候に出来るだけ影響を受けないよう技術の向上と収量アップ、販路拡大を目標に露地野菜の生産販売を行っていきたいと思います。

これから春作の準備・作付けが始まります。平成26年は1雨の雨量が多く、排水対策は講じていたものの、十分な排水ができず、生育に影響が見られた圃場も多数ありました。今まで以上に排水不良箇所を把握し、十分な対策を講じて頂きたいと思います。

【今後の管理について】

・白ネギ・



寒くなるにつれて生育が緩慢になり、軟白しにくくなりますが、こまめに土寄せを行い、軟白部分を多くするように心掛けて下さい。

寒さで害虫の被害は殆んど見られなくなる時期ですが、暖かさが続くと害虫の被害も発生しますので、注意と確認をお願いします。

・人参・



収穫・出荷後、貯蔵中に腐敗が多く見られる為、雨上がりや土壌が乾燥していない場合の収穫は行わないで下さい。

現在生育中の方は、首や肩の辺りが土から出ると変色による品質低下や腐敗の原因となりますので必ず土寄せを行うようにして下さい。

発病枯死した茎葉等はなるべく圃場外に持ち出して処理を行って下さい。

・春バレイショ・



種芋は30～40g前後に切り、切り口を乾燥させて植付けを行って下さい。

植え付け後の過湿は種芋の腐敗につながる場合がありますので、水はけの良い圃場を選び、必ず排水溝を作り、水がはけるように出口も必ず作るようにして下さい。

保温資材やワラ等をマルチの上にかけておくと防寒対策になります。

※契約販売の種子は1月下旬入荷予定となっています。種芋の確認を必ずお願ひ致します。

・水田ゴボウ・



保温材の被覆後にアブラムシの発生が見られます。保温材が風によって飛ばされる等、葉が外に出ているとアブラムシが付着すると考えられますので、飛ばされないようにしっかりと押さえて下さい。播種から4ヶ月後が収穫予定となります。

・簡易施設野菜・

コナガ・アオムシ・ヤサイゾウムシ等の発生による食害痕は品質低下となりますので予防策を十分行って下さい。粘着シートは害虫の通る場所に設置するようにして下さい。

・レタス・



生育適温が15～20℃で、10℃以下、25℃以上では生育緩慢となります。温度管理が難しくなりますが、換気により収量が大きく左右されますので、トンネルやビニールの開け閉めは必ず行って下さい。また、ハウスでの栽培では、高温になると変形しますので、温度管理に注意して下さい。

収穫時にレタスの温度が高いと萎れ等、品質が低下しますので、日中の収穫を避け、収穫したものは直射光線に当たらない涼しい場所に置いて下さい。

・千切大根・



収穫・乾燥の季節になりました。品質維持の為、できた製品は早めに出荷して下さい。異物混入が問題となっていますので、風の強い日などは注意をお願いします。異物の

主なものは洗い機のブラシ、わら、紐、竹くず、木の葉、ビニールシートの破片、髪の毛等です。大根の調整もしっかり行って下さい。

・甘藷苗・



日中の換気が不十分な場合、軟弱徒長になり、寒さで霜傷みしやすくなりますので、朝晩の換気は確実に行って下さい。

晴天・乾燥が続くと、アブラムシやダニの発生も予想されます。ハウスの出入りにより持ち込む可能性もありますので、苗を管理する際は、他の圃場から持ち込まないように注意して下さい。（作業服、ズボン、靴等）

・病害虫対策・

ハウス・トンネル内など、暖かい所では、真冬でも害虫は発生します。冷え込みが弱く日中暖かい日が続くと露地でも害虫の発生が見られます。予防策を必ず徹底するようにして下さい。

○アブラムシ

～シルバーテープの設置（反射する光を嫌い、作物への寄生が抑制される）

○ダニ・スリップス

～葉や茎に寄生します。草勢が良く発生が極僅かなら生育への影響は少ないと考えられますが、繁殖力が旺盛なので増え始めてからの対応は困難になります。

春作の作付けを計画している方は土壌分析を行い、分析結果に基づき堆肥や苦土石灰等の土壌改良資材の施用を行って下さい（※）。

雨よけハウスでは、残肥による養分過剰の傾向になり易いため必ず行って下さい。（完熟）堆肥を使用することにより作物の生育や品質が向上しますので播種または定植30日前までには施用を終わらせるようにして下さい。元肥は有機質肥料を使用しますので播種又は定植の7～10日前までには施用して下さい。

※土壌分析を行う事で、土の状態が把握でき、養分の過不足による障害を抑制します。

土壌分析は土を乾燥させた後、分析にかけるため、2週間ほど期間が必要となります。

分析に出される際は早めの提出をお願いします。提出は生産指導課又は開発センターまでお願いします。

出荷前に栽培管理簿の提出をお願いしていますが、産直・直売所に出荷を行う方は販売・生産指導課へ提出をお願い致します。開発センターへ直接提出を行うと管理内容の確認が出来ませんので必ず販売・生産指導課へ提出を行って下さい。

連絡先…販売課・生産指導課 77-2216

<お知らせ>

作付検討会を行いました。

11月26日(水) 平成27年度 バレイショ作付け検討会

作付け検討会に出席されていない方は、販売契約書の提出を早急をお願いします。

契約作付けを希望される方は必ず連絡をお願いします。

◎これからの作付け検討会開催予定品目～春人参、甘藷、里芋、白ネギ